



## 1 単元における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、以下のように進めることが考えられる。

評価の進め方	1	単元の目標を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。</li> </ul>
	2	単元の評価規準を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>③については、①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。</li> <li>どのような評価資料を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。</li> </ul>
	3	「指導と評価の計画」を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>③に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。</li> </ul>
	4	授業を行う	
	5	観点ごとに総括する	<ul style="list-style-type: none"> <li>④については、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。</li> </ul>

## 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成方法

### Step1 【学年ごとの目標及び評価規準の設定】

- 各学校においては、「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、各学校における生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を適切に定める。
- 五つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する評価規準は、「内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する。



### Step2 【単元ごとの目標及び評価規準の設定】

- 単元ごとの目標は、学年ごとの目標を踏まえて設定する。
- 単元ごとの評価規準は、「内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準」「学年ごとの評価規準」と同様に、単元ごとの目標を踏まえて設定する。
- 単元ごとの目標及び評価規準は、各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項(言語材料)、当該単元を中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況など、また、取り扱う話題などに即して設定する。

### Step3 【「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成】

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価する。
- 外国語科では、基本的に、「主体的に学習に学習に取り組む態度」の評価規準は、「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定する。

#### 「話すこと[やり取り]ウ」第3学年

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。



単元の 評価規準例	聞き手に伝わるように、伝統文化についての意見を読んで、自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。
--------------	---



「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、一体的に行うのが基本なので、文末以外は、同じ表現になるんだね。

#### Point1

評価規準は、各領域の基本的な形を参考にして作成することができます。左記の[やり取り]では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

#### Point2

「思考・判断・表現」で示すことを「しようとしている」状況の評価します。また、資質・能力を生徒と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を継続的に見取ることも大切です。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価時期の考え方

「主体的に学習に取り組む態度」は、言語活動に取り組む中で、「知識及び技能」並びに「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成されることから、一定の学習を経たのち（単元終末や学期末等）にパフォーマンステスト等で評価することが基本となる。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方（例）第1学年1学期（3学期制）

(1) 次の【指示文】を示してパフォーマンステストを行った場合

【指示文】

英語の授業で、初めて会う ALT の先生に、自分のことをよく分かってもらえるよう、何を伝えたらよいかを考えて自己紹介してください。また、ALTの先生からの質問にできる限り詳しく答えてください。

【生徒Aに対する評価】

評価の観点	評価	評価の根拠
知識・技能	c	○ 発話された英語は誤りが多かった。
思考・判断・表現	c	○ 発話内容については、興味や関心のある事柄について、やり取りすることができておらず、やり取りしようとする態度もみられなかった。
主体的に学習に取り組む態度	c	

(2) 生徒 A に対する1学期末の観点別評価の総括（学習した単元（1課～3課）の観察結果が次のような場合）

	1課の結果	2課の結果	3課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと[やり取り]の評価結果	他の領域の評価結果	1学期の観点別評価
知	c	b	b	c	c	(a~c)	(A~C)
思	c	b	b	c	c	(a~c)	(A~C)
態	c	b	b	c	b	(a~c)	(A~C)

- 「知識・技能」、「思考・判断・表現」は、単元の評価結果やパフォーマンステストの計4回の評価場面の結果、「b」と「c」が同数であったが、1学期の最終段階であるパフォーマンステストの結果を重視し、どちらも「c」としている。
- 「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価するという考え方により「c」とすることが考えられる。しかし、この例では次の理由から、「c」ではなく「b」としている。

【「主体的に学習に取り組む態度」を「c」ではなく「b」とした理由】

- ① 以下の振り返りの記述内容から、自己調整を図ることができていると判断した。

（何を意識すれば言語活動に取り組むことができるようになるかを理解している記述例）

自己紹介ができるようになってきました。でも、今日のパフォーマンステストでは、ALT の〇〇先生の質問に答えられませんでした。聞かれていることが分からなかったときは質問すればよかったけれど、緊張して質問できませんでした。今度は、ちゃんと聞かれたことの意味を確認したいです。

- ② 振り返りに記述されていること（質問されたことの意味を確認するなど）が、1課から3課の言語活動において、実際に態度となって表れていた。

このように、学期末等の総括の段階で、「b」と「c」のどちらもあり得る場合に限り、振り返りで記述している内容が、授業における言語活動への取組の様子にいくらかでも実際に表れていれば、「c」ではなく「b」と総括することも考えられる。

5 観点別学習状況の評価に係る記録の総括（例 評価結果の a、b、c の数を基に総括する場合）

記録の総括の時期としては、単元末、学期末、学年末等の節目が考えられます。評価に係る記録が複数ある場合は、例えば、次のような方法があります。

- 評価結果の a、b、c を数値に置き換えて総括
- 評価結果の a、b、c の数を基に総括

その他にも、さまざまな方法が考えられます。いずれにしても、評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法は、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

(例)

	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)		パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 (ペーパーテスト等の結果を加味)			観点別評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・表現	b	b	c	b	c	B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	c	B	

自己評価(振り返りの記述内容)を参考